

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300575		
法人名	有限会社 海成水産		
事業所名	グループホーム館		
所在地	大分県大分市大字入蔵1095の4番地		
自己評価作成日	令和3年5月17日	評価結果市町村受理日	令和3年6月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4472300575-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4472300575-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	令和3年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山間の田畑に囲まれた静かな環境に位置し、古民家を改造した懐かしさを感じられる住居で、四季の移り変わりを感じ、のんびりと過ごして頂ける。心も体も健康に過ごすには「食」が大切という考えから、この地区の田んぼで作った米を使用し、野菜は地区の住民からの頂き物や職員の手作り野菜を使用、また施設周辺で採れた山菜を使い季節感のある食事を提供している。また、職員の半数が介護福祉士の資格を持ち、お一人おひとりの思いを大切に、お一人おひとりが自分らしく暮らせるような居場所を提供できるように日々努めています。今年度は精神障害を持つ方の入所があり職員で病気について学び穏やかに過ごせるように暖かく見守るよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山々に囲まれ、近くの清流には蛍が飛び交う自然豊かな環境にグループホームがあります。施設前にある法人所有の田畑には、四季折々の花々を植え、利用者や地域の人の目を楽しませ安らぎを与えています。また、「食」を大切に旬の野菜を使い職員が調理した食事は、利用者により好評です。割烹着姿の職員は懐かしい家庭的な雰囲気を出し、認知症回想法(非薬物療法)に役立っています。職員は利用者一人ひとりの日常に寄り添い、お互いに笑顔になるケアを目指し理念を念頭に、利用者の思いを尊重したケアをチームで行っています。また、地域出身の職員が多く、地域交流や連携が図られ、利用者とともに地域行事に参加していましたが、現在はコロナ禍により、自粛する中、地域の方の配慮により、弁当、お菓子が届けられています。コロナ禍で工夫をしながら地域交流を行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの目指すケア・方針を管理者・職員で共有し、玄関や居間に理念を掲示している。また、毎朝の申し送り後に全員で理念を唱え理念に沿ったケアの実践につなげている。	理念はホーム内に掲示しており、毎朝の申し送り時に唱和し周知・共有を図っています。理念をより具体化し、実践に繋ぐため「目配り、気配り、心配り」を念頭に、利用者の気持ちを第一に支援に励んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者、職員のほとんどが地域住民の為地域の祭りに参加して交流を深めている。また、介護等の相談があれば誠意をもって対応している。	コロナ禍の中で制限はありますが、庭を散歩中に近隣の方と挨拶や会話で交流を図っています。職員は地元出身の方が多く、地域の情報や連絡事項等を得ておりその中で今年は「おせつたい」「敬老会」の地域行事でお菓子や弁当を頂き、交流の機会を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	機会は少ないが運営推進会議の際に認知症の方への接し方や支援の方法など助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で利用者やサービスの実際について報告や話し合いを行い、行政、包括センター、地域の方々から質問や意見をいただきサービスの向上に活かしている。	コロナ禍により対面での話し合いに制限がある中、書面での会議となっていましたが、4月より感染対策を行い会議を再開しました。利用者状況・活動報告・参加者の質問等具体的な話題も盛り込まれ双方向の会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいた時に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。また困った事があれば行政窓口に出かけたり、電話をして相談をしている。	行政職員は運営推進会議に出席し、情報交換を行っており、介護保険の新しい情報等メール・FAXで頂き運営の一助としています。また、相談やアドバイスも気軽に求められるようコミュニケーションを取っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を2ヶ月に1回行い、身体拘束の知識の向上に努めている。また、身体拘束をしないケアを計画し、実践している。	「身体拘束廃止・虐待防止」の研修や勉強会を2ヶ月毎に実施する中で、職員は具体的な内容とその弊害について理解しています。日頃のケアの中でも言葉掛けに注意し、スピーチロック等各自でチェックしながら、抑圧感のない暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を行い知識の向上に努めている。また、入所者の言動や外傷に注意し、虐待が見過ごされないように職員が互いに注意をし合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を開き理解を深めている。また、利用者から相談があれば対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定等の際は、利用者の家族等が納得のいく説明を十分に行い理解した上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に意見や要望を伺ったり、年度末に入居者の家族にアンケート調査を行い意見・要望をいただいて運営に反映させている。また、玄関にご意見承り箱を設置している。	家族の意見では面会に対する要望が多く、現在はコロナ感染対策を行い、窓越しの面会を実施しています。家族全員にアンケートを取り、意見・要望を把握し「利用者・家族意見記録」ノートに記載し、職員で情報を共有し運営に反映されています。	管理者は家族に電話やアンケートで思いを聴いていますが、アンケート結果を統計で表示し、検討、改善策を全家族に送付されると家族の安心と信頼に繋がると思われます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや勉強会、昼食休憩等で意見交換し提案があれば話し合い業務改善やサービス向上に反映させている。	会議・申し送り・管理者と職員の日常のやりとりから、意見・要望を募って業務の効率化・改善に努めています。また、気付きを大切に申し送りノートを活用し、職員からの意見を反映、支援の統一に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の努力、実績を把握し各自が向上心を持って働けるように努めている。また、個々の希望を入れシフトの作成をする等働きやすい環境・条件の整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1回の勉強会を行い、法人外の研修は個々のレベルに応じ受けられるように機会を作り勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会等に参加して交流する機会はあるが相互訪問等の交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し、本人の生活状況や不安・要望を伺い安心して過ごせるように信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前に家族と面談し、本人の現状や家族の不安・要望を伺い良好な信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に本人や家族と面談し本人の必要としている支援を見極め、他の施設サービスの利用を含め、本人の希望を重視した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、自分でできることは自分でして頂き、わずかな時間でも共に過ごし支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等が面会に来られた時には本人の暮らしぶりや希望を伝え、共に本人を支えていく関係を築いている。また、必要な物は家族と相談し、手配している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	軽度の利用者には家族の協力を得て、昼食や買い物に、また以前住んでいた場所や、墓参り等に出かけられるよう支援している。	家族の協力を得て、外食・外出・外泊(自宅)に出かけたり、墓参りをされる利用者には車椅子搭載可能な事業所の車を使用、家族と職員の協力を出掛けています。友人・知人の来訪時は窓越しの面会となっており花見や季節毎のドライブは、現在活動を自粛しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の性格・相性を把握し、居間の席を決めてお互いが良い関わりが出来るような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合で他の施設に転居される方はいないが、相談があれば支援できる関係性に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる方には暮らし方の希望や思いを聴き希望に添えるように努め、意思表示が難しい方は日々の様子や行動・仕草、個人の性格を考慮し本人本位に検討している。	思いや意向は利用者から聞き取るように努め、困難な場合は、これまでの状況を参考に職員が提案し、表情から察知するようにしています。また、選択できるように声掛けをしたり、無理強いをせず、希望を尊重したケアを行い、得られた情報は職員間で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス導入時に生活歴、生活環境、サービスの利用等の情報を把握するようにしているが、不明な点は家族等の面会時に伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の一日の過ごし方、心身状態、体調の変化等ケース記録に記入している。また、申し送り時にも職員が現状把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族等の意向を聴き職員と担当者会議を行い現状に即した介護計画を作成している。モニタリングも職員と行っている。また、状態の変化等があればその都度見直しを行っている。	毎月の会議でモニタリングを行い、半年毎のプランの見直しを行っています。担当職員・利用者・家族等の意見を聴取し、日々の暮らしの中から、利用者の変化等を共有しプランに活かしています。	ケアプランが毎日実施されているか、目標達成状況等ケース記録の中でチェックできる項目を設けることと、プランの中に、身体状態の側面だけでなく、利用者の個別性(思いや馴染みの暮らし等)も意識したプランを作成されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫をケース記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。また、職員間にも確実に伝わるように白板に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体力低下、体調の変化等によりその時々の変化するニーズに対応して、現状に即した柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	遠出が困難になったので地域の祭りに参加したり、地域のボランティアの協力を得て楽しく豊かな暮らしができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談しかかりつけ医を決めて、専門以外の病気の際は専門医を紹介していただき受診している。また、診察時に本人の状況を伝えたり、ケアする場合の注意点を聞いて情報の共有を図っている。	事業所の、複数の協力医や利用者のかかりつけ医との連携を密に保ち、月2回の定期的な往診時には各自の状況や気付いた点などを伝え、服薬管理に関する変更や精神的な症状を呈する利用者にも、最善のケアが出来るよう支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職不在の為、日常の体調変化を見逃さず変化があれば主治医に連絡し、適切な指示をいただいたり、時には往診をして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際介護添書を提供し、安心して治療できるように、又早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。日頃からそうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の過ごし方について家族と主治医が話し合いを行い、施設ですること、できないことを十分説明し、納得していただき、終末期に向けた方針の共有と支援に主治医・訪問看護と共に取り組んでいる。	入居時に、終末期に移行する際の対応のあり方を、家族と一緒に話し合い意思確認を行った上で、看取りまでの対応方針の共有を図っています。事業所で対応しうるケアをチームで行い、家族には医師から説明を受け、対応方針の共有を図っています。	看取りの為に家族が来所の際、泊まり込みで複数の関係者が滞在している時、一時的に夜間に休憩場所を設置しておくことが出来れば、他の利用者への影響も踏まえて不安なく過ごして頂けると思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強を行い実践力を身に付けている。また、ホール内に心肺蘇生法を貼っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年二回避難訓練や消火訓練を実施している。マニュアルを作り変え、また緊急連絡網を整備し、連絡をすればすぐに地域住民の協力が得られる体制も整えている。地震に備え家具の配置も考慮している。	災害時の避難訓練は、火災や地震などを想定して年二回行っています。車椅子利用者や歩行困難者がいる為、夜間帯に発生した時の対応には、地域との協力体制の重要性を認識しており、避難場所も広い敷地内の安全な場所に設置しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。特に排泄・入浴時にはプライバシー保護に気を付けている。	トイレ誘導や入浴時等には、声掛けやタイミングに注意をして利用者の尊厳を損なわないよう、一人ひとりに気を付けた言葉かけに努めています。本人の意思を尊重し、出来る事はして頂き、出来ない事を手伝うようにし人格の尊重に努めた支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり自己決定できる方には、本人の意思を尊重し自己決定できるように支援している。出来ない方にはその時々の様子、性格等を考慮し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせて食事の時間を下げたり本人の意思を尊重し可能な限り希望に沿った生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれが出来る方には楽しんでいただけるように支援し、出来ない方には季節に応じたその人に似合う物を選んでおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備ができる利用者を手伝って頂き季節の山菜、野菜を使用し季節を感じられる食事を楽しんでいただけるように努めている。時には外食を楽しんで頂いている。	食事は三食ほぼ全品、職員がその都度季節の食材などを用いて供しています。好きなものしか食べようとしない利用者には、食材の目立たない切り方やご飯の中に盛り付けるなどして、一緒に食べて頂く等工夫して栄養保持に努めています。	手作りの食事は、口当たりも軟らかく食べやすく調理されていますので、食べるペースの遅い利用者にも、楽しい時間となるよう職員の食介へのタイミングも充分な配慮有る支援がなされることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定、定期受診等で各自の栄養状態を確認し対応している。また、嚥下状態に応じミキサー食や刻み食にしたり、またトロミを付け誤嚥を防止している。食べる量も各自個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口臭や舌苔が出来ないように、毎食後、一人で出来る方には見守り、出来ない方にはその方に応じた口腔ケアを行っている。また、歯や口腔内にトラブルがあれば受診したり、状況に応じ訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で各自の排泄パターンを把握し、昼夜を問わず個別対応している。トイレで排泄できる方はトイレ誘導してできるだけトイレで排泄できるように支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握し、リハビリパンツやパッドの交換等の支援を声掛けした後、個別対応しています。座位が保持できない利用者や排便状況の悪い利用者には、医師の指示を仰ぎ気持ち良くトイレでの排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使用した食事を提供し、毎日牛乳を飲む等便秘の予防に取り組み、できるだけトイレでの排便に心がけている。また、排便を毎日記録し、便秘には個々の状態に応じて便秘薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回以上の入浴を本人の希望や体調を考慮し、個々に応じた入浴支援を行っている。拒否される場合は順番を変更して再度声掛けしたり入浴日を変更したりして柔軟に対応している。	週二回の入浴時、拒否の利用者がいましたがその拒否の理由や不安感をじっくりと丁寧に聞く事で理解を示し、服の着替えの提案をしたり部分浴を勧めたりして、再度の声掛けに応じてくれるようになった利用者もあり、柔軟な支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良の訴えがないので顔色、バイタル等を見てその時々状況に応じ休んでいた。また、昼間は出来るだけ臥床せず日光浴等をして夜間気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をケース記録簿にファイルし、服用している薬がいつでも分かるようにしている。また薬の変更時は特に変化に気配りし症状の変化が見られたら直ぐに主治医に報告し薬の調整をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力・機能に応じた仕事をお願いし、感謝の言葉を伝えている。また、得意なことや好みを把握し楽しく日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの機能・体調を考慮しながらできる限り外出できるように支援しているし、本人や家族の希望があれば同伴したり、家族と共に外出できるように支援している。また、天気の良い日に庭や家の近くを散歩して季節を感じて頂いている。	この一年間はコロナ禍のため、今までの様な戸外への外出は出来ませんが、敷地内で散歩をしたり、周辺の景観を見渡せる場所で気分転換しています。近隣に住む家族の希望で、利用者の家の行事の為家族による送り迎えで短時間外出することもあります。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	三人だけお金を所持している。病院受診時に好きなお菓子等を買ひ、買い物を楽しむ支援をしているが本年度は感染症防止の為外出は控えました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは無いが希望があれば電話を掛けたり、電話がかかってきた時には取り次いでいる。携帯電話を所持している方は自由に家族と連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居室等に転倒時の怪我防止用マットを敷き、気温に応じ、随時、施設内の温度や湿度の調整を行っている。また、季節の花を玄関、居間、居室等に活け、季節を感じ居心地よく過ごせるように工夫している。	歩行時、転倒不安の生じる利用者の事故防止の為、机の配置やけが防止用の弾力マットを設置しています。ソファも複数の利用者がゆっくりと自分のペースで居心地良く過ごせるように配置し、季節感の感じられる居心地の良い共用空間となるよう、常に改善点を探して配置換えを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方と談笑しているので、居間の席は利用者の相性、性格、健康状態を考慮して決めている。ソファでくつろぎたい方は車椅子から座り替えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の時に家族写真や使い慣れた家具等を持ち込み、居心地良く過ごせるように支援している。また、行事がある毎に写真を撮り自室の壁に貼っている。	ベットの位置や持ち込みの家具等は安全面を重視して配置し、転倒や落下などの危険を防止するよう努めています。職員によるレクリエーションや行事等の写真を自室の壁に自由に貼って、利用者にとって寛げる居室となるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、手すりの設置、背文に合わせたテーブルや椅子を用意し安全な生活が送れるように環境づくりをしている。		